



お悩み解決！ 生ごみリサイクルお悩み相談

今回は生ごみリサイクルを体験された方々から伺ったお悩みの中で、特に多かった「虫がわいてしまい、生ごみリサイクルをやめてしまった」というお悩みについてまとめました。

虫がわいてしまった原因としては、以下のようなことが考えられます。

- 投入する生ごみが新鮮なものでない
- コンポストの中身が水分過剰になっている
- 毎日、コンポストの中を隅々まで混ぜていない

コンポストは中の温度が低い状態で水分を含んでいると、生ごみの発酵分解が進まずに生ごみが腐ります。そこに菌が付いてしまい、虫がわくことにもつながっていきます。コンポストに投入する生ごみは、調理して出たなるべく新しいものを入れましょう。

また、投入する生ごみは調理の段階から三角コーナーには入れず、水に濡らさないように別の容器へ取り分けましょう。水に濡れてしまうとコンポストの中が水分過多になるばかりでなく、生ごみに含まれる栄養も水と一緒に流れてしまいます。野菜くずや果物の皮などは小さく切ってから入れると分解しやすくなります。コンポストに雨が入らないようにすることも大切です。

せっかく生ごみを投入しても酸素が不足してしまうと、コンポストの中の微生物が活動できないため、生ごみの堆肥化が進みません。毎日コンポストの中を充分にかき混ぜることは、微生物に酸素を供給して、分解を促進させることにつながります。

投入する生ごみの種類が野菜類に偏ると、コンポストの温度は上がりません。魚・肉類の生ごみは分解していく過程で温度が上がりがやすく、50℃～60℃くらいになると、堆肥の中に潜んでいた虫は熱で死んでしまいます。魚・肉の他にヨーグルトや米ぬか、使用後の天ぷら油も温度を上げることに適しています。油を入れる場合は油に米ぬかを混ぜ、団子状態になったものを入れると水分過多になりません。

かき混ぜた後の堆肥は、片方に高く寄せておくと温度が上がりがやすくなります。その上に通気性のある布をかけますが、この布に堆肥が付かないように気を付けましょう。布に堆肥が付くと、そこに虫が寄ってきて卵を産み付けます。外部からの虫の侵入を防ぐためには、布をひもでしっかり縛りましょう。

これからまだまだ寒い日が続きます。温度を上げるために、コンポストに蓋をして暖かくします。容器に蓋が無い場合は、木の板などでも代用できます。微生物が呼吸できるように、少し隙間を開けて置くことがポイントです。

堆肥が出来上がるまでには手間もかかりますが、毎日コンポストに向かい合っていると気になっていた手間も身になじみ、コンポストが「生きている」という実感もわいてきて、もっと大切にしたい～と思えてくるかもしれませんね。



蓋をした状態のコンポスト

臨海3Rステーション講座紹介 ミシンを使ってみませんか

毎月2回、市民の方々にミシンを使っていただく時間を設けています。袋作りやズボン作りといったリフォームのための使用に限っています。ちょっと使いたけれどミシンの調子が悪い、家にミシンがない、という方にも活用いただいています。

平成28年12月は10日土曜日に1回目のミシンの時間貸しを行いました。今回は男性の方が参加され、ジーンズの穴があいたところに当て布をして補修をされていました。庭仕事で使うジーンズだから穴さえふさがればよいとのことでしたが、ミシンはほぼ初めてなのでなかなかうまくいきません。ボランティアスタッフの手助けもあり、膝やおしりの部分などの穴がふさがり、2本のジーンズが復活しました。

前回は男性の方がズボンのサイズ直しにお見えになっていて、幅を細くして自分に合うサイズに縫い縮められていました。他には、長すぎてはいていなかったズボンのすそ上げを4本仕上げられた方、途中まで手縫いしていたカーテンを持って来て作りあげられた方、着物からシャツワンピース作成に取り組んだ方がいらっしゃいました。

11月のジーンズのリメイク講座でバッグを作った方もいらっしゃっていて、スタッフのアドバイスを受けながら、同じデザインでひとまわり小さなバッグに挑戦されていました。

1日3時間の限られた時間内にできるところまで作り、ミシンの時間貸しに何回か参加して、すてきなベストを作った方もいらっしゃいました。ご主人のかすりの着物が、奥様のかわいいいベストに生まれ変わりました。

できるだけ多くの方にミシンを使っていただくために、ご予約は初めて参加される方を優先しています。家の中で眠っている布や洋服にもう一度光を当てるために、ミシンを活用しませんか？



ミシンの時間貸しの様子



参加者の作品 ベスト



参加者の作品 傘布バッグ

お知らせ 図書貸し出しについて

臨海3Rステーション2階にある図書コーナーには、環境やごみ減量などに関する図書が1,000冊以上あります。現在、図書の整理作業を行っており、整理が終わったものから図書コーナーに置いています。図書は自由に閲覧でき、貸し出しもできます。

平成28年12月から図書の貸し出し規定を、下記のように変更しました。

- 貸出対象者 福岡市内在住の方
福岡市内に通勤・通学されている方
- 貸出期間 2週間
- 貸出冊数 1人3冊まで



事務局前に移動した図書コーナー

コラム「愛縁機縁」 ちりも積もれば山となる

ことわざ好きの祖母の口ぐせが「ちりも積もれば山となる」。耳にタコができるぐらいに聞かされた。浪費癖が直らない孫娘に手を焼いていたようだ。お小遣いの中から1割をもともと無かったつもりで貯金箱に入れて、積もり貯金を習慣化させようとやっきになっていた。祖母の積もり貯金の夢を果たせないまま大人になり、買い物すれば大中小のさまざまな段ボールの空き箱と紙箱、雑誌、紙類に囲まれた部屋で、ちりならぬごみの山の住人となった。

これではならじと、不用品の山を作るまいと決心。新聞紙と段ボール以外の紙類をごみに出さないようにした。汚れた紙を除いた雑がみをまとめるのが今ではすっかり習慣化してひと手間かけるのがちっとも苦にならない。使用済み封筒やハガキも、送られた情報誌もホッチキスを外し、ティッシュペーパーの箱も、メモ用紙や書き損じた紙も、雑がみ入れの大きな紙袋にどんどん放り込み、外出のついでに資源物回収ボックスに入れてくる。ごみとして出す量が減ったせいで燃えるごみ用袋の使用は激減。1週間に1度、小サイズ(15リットル)で済んでいる。秘訣は「ちりも積もれば山となる」である。

これに味をしめて「ちりも積もれば山となる」第2弾に挑戦している。きっかけは、友人の鮮やかな宴会の締めくくりに感動したことだった。所属するスポーツクラブの友人たちと下関まで遠征。慰労会は広い和室だった。幹事役のの友人が立ちあがって「お開き10分前になりました。全員元の席に戻って、残ったお料理を召し上がってください」。宴もたけなわだったが、うながされて元の席で完食した友人たち。口々に、これはいい！ 食べ残しは誰も喜ばないもんな。もったいない。一生懸命に作ってくれた百姓さんや料理人、店の人にも申し訳ないことになる。と、あらためて提案してくれた友人に拍手喝さいを送った。

心の中で思っている、口に出さないと、行動に移さないと何も無いのと一緒に。これからは、たとえ数人の集まりでも注文したら完食すること。待った！ その前に、食べられるだけを注文する習慣をつけていこう。ちりも積もれば山となるのだ。(鮎)